

小中一貫校南アルプス市立白根飯野小学校

令和7年度 前期学校関係者評価書

【学校運営協議会】

- 1 実施日 令和7年9月5日（金）
- 2 会場 白根飯野小学校イングリッシュルーム
- 3 参加者

(1) 学校運営協議会委員（5名）

No.	氏名	役職
1	市川 和郎	元白根飯野小学校長 白根巨摩中学区学校運営協議会（小中一貫教育推進協議会）委員
2	飯野 久	南アルプス市議会議員
3	松野 昇平	PTA会長 白根巨摩中学区学校運営協議会（小中一貫教育推進協議会）委員
4	米山 英直	飯丘地区自治会長 白根巨摩中学区学校運営協議会（小中一貫教育推進協議会）委員
5	米山 光広	飯野地区自治会長
欠席	飯田 哲夫	元白根飯野小学校長

(2) 学校職員（3名）

No.	氏名	役職	備考
1	保坂 泉	校長	本校在籍2年目
2	中島 則雄	教頭	本校在籍1年目 / 事務局
3	飯野 めぐみ	教務主任	本校在籍3年目

4 学校から提案した内容

- (1) 教職員による前期自己評価アンケートの状況
- (2) 学校生活に関する前期児童アンケートの状況
- (3) 学校生活に関する保護者アンケートの状況
- (4) 白根飯野小学校前期自己評価書（アンケートの分析及び改善方策について）

5 学校関係者評価委員会報告概要

本校の学校評価は、学校教育目標の実現（学校経営方針の実現に向けた本年度の努力点）のための取組状況を、教職員による自己評価に加え、保護者と児童によるアンケート調査結果を活用する中で、それぞれの立場を踏まえるとともに、これらに関わる設問に寄せられた意見や、日常的に行っている児童観察も加味して分析し考えている。

なお、今回の調査は1学期の取組が根拠となる。

〔1〕評価基準

全体傾向を把握するため、A B評価を肯定的評価とし、それらの合計が、80%を超えている場合は『満足できる状況』と判断した。また、C D評価を否定的評価とし、それらの合計が20%を超えている場合は『改善の余地がある状況』と判断した。

(A：そう思う B：だいたい思う C：あまり思わない D：そう思わない E：わからない)

〔2〕各項目の分析

①「確かな学力」について

教職員アンケート1-5 児童アンケート2,5,8 保護者アンケート3,4

教職員のアンケート結果及び保護者のアンケート結果を見ると、すべての項目で肯定的評価が80%以上となり、肯定的な結果となっている。ただし、教職員のアンケート結果では、「2 児童が、友達の考えや感想に耳を傾け、多様な考えを大切にしたり対話的な深い学習を創造することができたか。」「5 ペア学習、グループ学習を有効的に取り入れ、伝え、聞くなど言語活動を充実させることができたか。」「8 子どもの日常生活や好奇心に関わり、興味関心をかき立て、学校から家庭に発展する学習の工夫に努めることができたか。(教材の工夫と家庭学習の充実)」

の3点、児童アンケートでは「2 授業中、友だちの話をよく聞いて、自分の考えを伝えていきますか。」、保護者のアンケート結果では、「4 子どもは、家庭でも宿題や自主学習・読書など学習する習慣がついている。」の肯定的回答が相対的にやや低い結果となっている。

これらの課題は、文部科学省が提唱する「生きる力」の基盤となる「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力など」「学びに向かう力・人間性など」の3つの要素と深くかかわっており、「確かな学力」を育成するためにも対策が必要である。

本校では、「対話し、学び、わかちあう子どもの育成～指導と評価の一体化を通して～」をテーマに校内研究を進めている。その研究において、児童間の関わりを基盤とし、学習プロセスや言語活動を重視した授業展開によって、主体的・対話的で深い学びの実現を図っているので、自分の考えを他者にわかりやすく伝える力を育みつつ、グループワークやディスカッション、発表の機会を増やすことで、これらの能力を伸ばすように改善を図っていききたい。

②「豊かな心」について

教職員アンケート6-12 児童アンケート1,3,4,6,7 保護者アンケート1,2,5,6,11

教職員、児童、保護者のアンケート結果を見ると、すべての項目で肯定的評価が80%以上となり、肯定的な結果となっている。今後も、児童会活動や読書教育などを通じて、一人ひとりを大切にしたり教育といじめのない安心して通える白根飯野小を継続していききたい。

ただし、教職員アンケートの結果では、「8 相手の立場に立って考える体験を重ね、自分がされ

て嫌なことを、言ったりしたりしない子どもを育てることができたか。」「11 豊かな読書・文化芸術体験・特別な教科「道徳」の学習等を通し、辛いとき苦しいときにも強く生きる心を育むことができたか。」の肯定的回答が相対的にやや低い結果となっている。

学校は社会生活や集団生活を学ぶ場であり、常に人と人との関わりの中で多くの経験を積み重ねている。そのため、教職員は、授業中に留まらず様々な場面において、個を尊重しながらも他者との関わりを考えさせる指導を行ってきた。しかし、現状において、自己中心的な言動がトラブルに発展したり、自分の思い通りにならずに落ち込んでしまったりすることも少なくない。

これらの改善は一朝一夕にできるものではないので、普段から、児童の思いやりのある言動を称賛したり、他者の気持ちを想像させたりすることと併せ、道徳や読書を通じて情操教育を充実させていきたい。強く生きる心を育むには、自己肯定感やレジリエンスを身につけることが重要である。そのために、日々の指導の中で、努力の過程を認めたり、失敗を恐れない環境をつくりたい。

また、児童のアンケート結果では「1 学校は楽しいですか」の肯定的評価がすべての学年において80%を上回っており、良好な結果といえる。しかし、否定的回答をした児童の気持ちに寄り添うことは言うまでもなく、「楽しい」と回答した児童が感じている楽しさの質にも目を向け、短絡的な受け身の「楽しさ」ではなく、自らの力で創造する質の高い「楽しさ」を感じられるようにしていきたい。

③「健やかな体」について

教職員アンケート13,14 保護者アンケート10,12

教職員、保護者のアンケート結果を見ると、すべての項目で肯定的評価が80%以上となり、肯定的な結果となっている。特に、保護者アンケートでは「10 子どもは、安全を意識し登下校している。」「11 ご家庭では、早寝、早起き、朝ごはんに取り組んでいる。」の肯定的評価が両方とも95%となり、家庭での健康や安全に対する意識の高さが感じられた。

その一方で、教職員アンケートでは「13 運動の苦手な子どもも、自己の進歩や達成感を味わわせ、運動習慣を育むことができたか。」の肯定的評価が相対的に低い結果(89%)となった。体育の授業では、様々な場を設定して、運動を苦手としている児童も進んで取り組める場を設定するようにしている。また、一人ひとりが自分の目標を設定し、他者との競争や比較ではなく、自分の力を高める指導をしてきた。このような指導を継続し、成功体験を積み重ねることにより、運動の得手不得手に関わりなく運動に親しむ習慣を身につけさせていきたい。

④「グローバルに活躍する人材」について

教職員アンケート15,16,17

教職員アンケートを見ると、3項目のすべてにおいて肯定的評価が80%以上となり、肯定的な結果となっている。しかし、「15 児童が、学ぶことを通して、自己や他者の良さ、人として生きる良さに気づき、進んで社会と関わる意欲や態度を育むことができたか。」「16 外国語(外国語活動)を通じて、児童が明るく表情豊かに表現し、理解しあえる喜びを体験し、異文化と共生する態度を養うことができたか。」「17 教科等を有機的に連携させ、自ら学び、学び合い、協働して解決する教育課程の工夫に努めることができたか。」のすべてが80%台となり、他の領域に比べて肯定的評価が低い結果となった。

グローバルに活躍する人材を育てるためには、異なる文化や価値観を持つ人々を理解し、尊重す

る心を育むことが不可欠である。そのために、学校生活の中で、様々な背景を持つ人々と交流する機会を増やしたり、異文化について学ぶ授業を取り入れたりすることで、児童が多様性を自然に受け入れられるようにしていく必要がある。

また、グローバル社会では、正解がない問いに対して自ら考え、行動する力が求められる。受け身の学習ではなく、探究学習やプロジェクト学習などを通じて、子どもたち自身が課題を見つけ、解決策を導き出し、自分の意見を明確に表現する練習を積むことが重要である。これにより、コミュニケーション能力やリーダーシップといった、国際的な環境で不可欠なスキルを育てていきたい。

最後に、グローバルに活躍するためには、外国語、特に英語によるコミュニケーション能力が不可欠である。本校では、英語専科教員とALTが協力し、遊びや歌、ゲームなどを通して、外国語に親しみ、聞く・話すことへの抵抗感をなくす授業をしている。完璧な文法に重点を置くのではなく、まずは「話したい」「伝えたい」という意欲を育むことに重点を置くことで、将来的な語学学習へのモチベーションにつなげていきたい。

⑤「特別支援教育の推進」について

教職員アンケート18-21

教職員アンケートを見ると、4項目のすべてにおいて肯定的評価が100%となった。

学年や学級という区切りはあるが、飯野小の全教職員で全校の児童を支援していくという意識で児童理解に努めている。児童一人ひとりの様子を日々の観察から読み取り、個に応じた対応を心がけるとともに、その情報を学校全体で共有する機会も設けていることがこの結果につながったと思う。

しかし、様々な特性を持つ児童が年々増えてきているため、個々の実態や課題を把握して一人ひとりに丁寧に対応する必要性を感じながらも時間的な余裕がなく、個に応じた指導の難しさを感じる場面も少なくないのが実情である。

そのため、個々の児童生徒のニーズに合わせた適切な指導を行うために、教員一人ひとりの専門性を高めることが重要である。特別支援教育に関する研修の充実や、校内での情報共有、相談体制を確立することで、学級担任や保護者が孤立することなく、学校全体で子どもを支えることが重要である。また、学校内の特別支援教育コーディネーターを中心としたチーム体制を構築し、状況に応じて外部の専門機関との連携も強化していきたい。

⑥「保護者・地域との連携」と「小中一貫校への取り組み」について

教職員アンケート22-24 保護者アンケート7,9,14-16

教職員、保護者のアンケート結果を見ると、すべての項目で肯定的評価が80%以上となり、肯定的な結果となっている。特に、教職員アンケートの「22 適切な情報発信等を通して、保護者・地域との共通理解を図るとともに、その力を活用し、ともに支えあう地域の学校づくりに努めることができたか。」「23 PTA活動等を通して、保護者との協力関係を築くように努めることができたか。」と保護者アンケートの「7 学校は、情報発信（連絡帳、おたより、ホームページ等）として、子どもの教育活動を伝えている。」「9 学校は、授業参観・行事等学校開放に努め、保護者と連携し、その意見に耳を傾けている。」が高い評価となっており、学校からの情報発信を保護者が好意的に受け取るとともに、学校が保護者からの要望に真摯に耳を傾けているという良好な関

係が構築されているといえる。

その一方で、教職員アンケートの「24 小中一貫校として、目指す児童生徒像を理解し、そのための取り組みや教育課程を意識して行っている。」が相対的に低い結果(84%)となった。しかし、保護者アンケートの「16 小中一貫校として、3校(白根巨摩中, 白根飯野小, 白根東小)が連携して取り組み教科指導を行っていることを理解している。」は昨年度を上回る結果(92%)となった。保護者の間では小中一貫校としての取り組みが浸透してきているので、学校としては、9年間を見通した教育課程を編成したり、小学校と中学校の教員が互いの指導法や子どもの発達段階への理解を深めたりすることを通じて、よりきめ細やかな指導体制を確立していくことが必要異である。

また、保護者アンケートでは「14 P T A活動に進んで参加している。」「15 お子さんを地域の行事に参加させている。」の項目が昨年度に引き続き肯定的評価が相対的に低い結果となった。しかし、昨年度の結果と比較すると「14 P T A活動に進んで参加している。」は79%から82%へ、「15 お子さんを地域の行事に参加させている。」は81%から85%と肯定的評価が高まってきている。各地区の自治会長を中心とした地域の方々の努力により、コロナ禍で自粛したり制限されたりしていた地域行事が再開されてきていることが好影響を及ぼしていると考えられる。これにより、児童・保護者と地域のつながりが深まり、さらに地域社会と学校のつながりも構築されることをきっかけに、保護者・地域社会と連携・協働しながら、社会に開かれた教育課程の充実を図っていきたい。

⑦「保護者自由記述欄」について

○行事の実施時期について(運動会・林間学校など)

運動会については、近年の夏の暑さを考慮して、ここ数年は実施時期を10月に遅らせて開催しているが、練習時期が暑い時期になってしまうため、様々な配慮をしながらの取り組みとなっているのが実情である。1学期に実施する場合は暑熱順化ができていないために子どもたちの身体に負担がかかったり、10月より更に遅らせる場合は他の行事との調整が必要となったりするため、今後も検討が必要である。

林間学校については、本校だけではなく、利用施設との調整が必要となる。特に、活動しやすい時期は多くの学校が希望するため抽選に外れてしまうことが多い。可能な範囲ということになってしまうが、子どもたちにとってより良い実施時期を探っていきたい。

○生徒指導について(言葉遣い、授業の妨げになる行為や行動など)

子どもたち同士のかかわりの中で、言葉遣いが悪かったり、過度なふざけにより相手を傷つけてしまったりということがある。そのようなトラブルが発生した際には、その都度、必要な指導をし、関係する子どもたちが理解、納得する指導を行う。また、そのようなトラブルを未然に防ぐために、常に相手を思いやる言動ができるように、学級指導は言うまでもなく、全校集会などを通じて繰り返し声掛けをしていく。

また、授業の妨げになる行為や行動については、個々の発達段階を踏まえた上で、担任以外の職員を配置したり、保護者の協力を得たりしながら対応していく。

○時間割（荷物の軽減、服装など）

ここ数年、子どもたちの荷物の重さが話題になることが多くなってきた。数年前からはタブレットPCの持ち帰りが加わるなど負担が大きくなっている。そのため、教科書やノートなどを学校に置いて帰るなどの工夫をしているが、今後は持ち帰る日や持ってくる日などを分散させるなど、計画的に進めるようにし、子どもたちが安全に登下校できるようにしていきたい。

また、体育と習字が同日にあると、体育着が汚れる心配があるとの意見をいただいた。本校は14学級あり、年度始めの時間割作成では様々な事項を考慮しながら調整をしているため、全学級で必ず別日にすることができかどうか難しいところではあるが、可能な範囲で調整していきたい。

日傘の使用については禁止になっているわけではなく、使用している子もいるので、各自にとって適切な対応が可能であることを周知していきたい。

○学校施設について（体育館への冷房施設設置、プール、エレベーター、照明など）

本校の施設は経年による老朽化が進んでおり、修繕が必要と思われる箇所は少なくない。しかし、予算は限られているため、その中で優先順位を考慮しながら修繕を行っていきたい。また、体育館への冷暖房や校舎へのエレベーターの設置などは、学校予算の中で賄うことができないため、市とも相談をしていきたい。

○教職員の不祥事について

全国的にみると教職員の不祥事があとを絶つことはない。本校において教職員の不祥事は発生していないが、他校の不祥事を他山の石とせず、全職員が教育公務員としての自覚をもった言動ができるようにしていく。そのためにも、校長をはじめ全教職員が自分自身だけでなく、職場全体でお互いに厳しい基準をもって声を掛け合う環境や人間関係を構築していく。

○学習支援について（学習支援員・学習ボランティアなど）

本校では市の配慮により、市単職員や学習支援員を複数配置していただいている。学習支援員や学習ボランティアを配置することで教育の質の向上や地域との連携強化などの大きなメリットがある。市に要望を出したり、学校独自にボランティアを募ったりするなどの対応をしていきたい。

○働き方改革について

ここ数年、教員の働き方改革が話題になることが多く、本校でも様々な視点から改善点を探り、可能なものから改革を進めている。しかし、一気に改善ということは難しく、今後も改革を進めていく必要がある。しかし、改革を進めるにあたっては、学校の主役は子どもたちであることを十分に踏まえた上で、子どもの成長や教育的効果を考えながら実施していきたい。

[3] 学校運営協議会委員の助言等

① 主に児童に関すること

- 挨拶運動に参加したが、挨拶をしない子や元気がなく、挨拶の反応が弱い子が気になった。白根巨摩中学校でも同じ傾向が見られたので、地域の力も使いながら挨拶ができる子を育ててほしい。そのためには、地域全体が子どもに向かう気持ちをもつことが大切である。
- 子どものアンケートは概ね良好であると感じる。今後も子どもの声に耳を傾け、子どもと一緒に、問題解決に当たっていただきたいと思う。

② 主に学習指導に関すること

- 子どもたちを育てるにあたり、多くの事柄に目を向けて、ありとあらゆる指導していくのには限界がある。そのため、例えば「合唱」などのように一つの柱を決め、それを中心に教育活動を行い、そこで育まれた成果や成長を他の様々なものに波及させていくのも良いと思う。
- 授業や家庭学習において子どもたちが情報端末機器（タブレット）を使用しているが、長時間使用による健康問題、生活リズムの乱れ、有害情報へのアクセス、ネット上でのトラブル、対面コミュニケーション能力の低下など、様々な不安を感じる。児童に対して、適切な使用方法を継続的に指導していくことと併せて、保護者への周知も実施していく必要を感じる。
- 確かな学力において、ペア・グループの子ども主体の学び合いをよりよくしていく対策が書かれており、その通りだと思う。学習の個別化はタブレットの導入もあり進んでいて、それはそれで子ども一人一人に応じた学習ということで意味がある。しかし、学校では、個人差があり、考え方も、感じ方も違う仲間と、意見を交わすなかで、気づきがあり、そこから意欲が生まれるということもある。また、考えを相手に伝えるために、理由や根拠を考えて発表する力や、相手の様子を読み取り、わかりやすく伝える態度も育つのではないだろうか。社会に出れば、いろいろな場面で、異年齢で、経験も様々な人と一緒に仕事をすることになる。そのとき大事なスキルは、このような学び合いのなかで作られると思う。その意味で、みんなで考えて、みんなでゴールを目指す学習態度を育てることが、今後ますます重要であると思うので、ぜひ、この方向で進めていってほしいと思う。
- 豊かな心については、相手の立場に立って考える、気持ちを読み取るということが課題として挙がり、その対策が書かれており、その通りだと思う。日々の授業において、みんなで課題解決を相談しあう、その活動を通して、相手のことを読み取る力をつけていくのではないかとと思う。その意味で、子どもたち同士に任せながら、自分たちで解決する、それを教師がサポートしながら、学力と人間性を育てていくのが良いと感じた。
- グローバルに活躍する人材についても、学級という集団のなかで、学校という集団のなかで、様々な文化や習慣を持った人が、ともに気持ちよく過ごすルールやマナーを考えることが、社

会性を身につけることで、とても重要である。この方向で指導を続けていくのが良いと思う。

- 特別支援教育に関して、一人ひとりに合った教育が行われているのは良いことだと思う。しかし、特別支援学級以外に支援を必要とする子が増えてくると、それに従って先生方への負担も大きくなり、それが他の子どもたちへのマイナス要因とならないか心配である。

③ 主に学校や教職員に関すること

- 教職員アンケートの項目を一つひとつ見ていくと、先生方にかかるプレッシャーはとても大きいのではないかと感じる。また、これらの項目内容を全てきちんと実施したら、子どもたちはどのような人間に成長してしまうのだろうかという心配がある。理屈抜きで、子どもたちも先生方ものびのびと活動できる学校であってほしい。

- 白根飯野小学校は、八田小中や芦安小中のように、一小一中であったり、敷地が隣接していたりするわけではなく、二小一中で敷地も分散しているというデメリットがある。しかし、保護者のアンケート結果では、小中一貫教育の取り組みが浸透してきており、学校の努力が成果となって表れてきているのではないと思う。今後、小中一貫教育の効果を更に高めていくためには、小中で連絡を取り合うだけの小中一貫教育であってはいけないと思う。小中9年間を見通した教育活動を見定めると同時に、保護者の願いや期待も把握しながら推進していくことが大切である。

- 今後も、校長先生を中心に、飯野小の先生方が協力し合い、子どもにとっても、また先生にとっても、飯野小学校が安心して楽しく過ごせる学校として発展させてほしい。

④ 主に保護者や地域に関すること

- 保護者の声を丁寧を受け止めていると思う。その要望にすべて満足の答えをだせなくても、まず、そう感じている保護者に耳と傾け、ともに考えることで、つながりが生まれ、解決の道が開かれると思う。

- 地域が子どもたちを育てていることやこの地域の良さを伝えたいので、PTA総会に出席する機会を設定してもらいたい。

- 子どもたちの登下校時に保護者が自動車で送迎に来るが、その台数が多く、更に徒歩で登校する子どもたちとの動線が重なるためとても危険である。体育館前のロータリー化や学校北側の旧JA飯野支所跡地の購入など、何らかの対策が必要である。